

③梁川町の伝説

梁川町にはたくさんの伝説がのこされています。

伝説は、むかしから、人の口から口にかたり伝えられてきたもので、そせんの考えや、もののおこり、古いじだいのようすがよくわかります。くわしくは梁川町史第12巻、口伝えや編や梁川ざっと昔かるたの解説書にまとめられています。

塩のふち (梁川地区)

むかし、相馬から梁川に馬で塩をはこんでいたころの話です。馬をひいていた馬かたが、あやまって塩もろとも馬を川におとしてしまい、ころしてしまいました。のちに人々が、この川の水が塩からいことを知り、これは馬のたたりだということで、馬のたましいをなぐさめるため、小さなほこらをたてました。それから、この馬のおちたふちを塩のふち、ここから下流を塩の川とよぶようになったということです。

ほかに、よくしられている伝説には、次のようなものがあります。

- 粟野地区 —— 粟野じぞうのおこり
- 富野地区 —— かにぶち・おに石かんのん
- 五十沢地区 —— うんかいというぼうさんの話
- 山舟生地区 —— 山舟生七ふしぎ・千本松
- 白根地区 —— くるか橋・雷神さまの水
- 堰本地区 —— ふたごづか・てんぐのすず
- 大枝地区 —— こむそうづか・五りんどう
- 梁川地区 —— あしなぎ・かた葉のはし



里美庵でひられる昔話のつどい